



子々孫々に伝えたい「恐ろしかった記録」

『禁野火薬庫爆発遭難手記』を刊行

◎チラシあり～

昭和14年3月1日の「禁野火薬庫大爆発」に遭遇した枚方町（当時）在住小野清彦氏の手記と、同氏が収集した爆発関係新聞記事及び市教委文化財課市史資料室が補足して収集した新聞記事を1冊にまとめた資料集。被災体験記はこれまでにないボリュームで臨場感に溢れており、我々に事件を追体験させてくれる。これまで必ずしも明らかではなかった爆発直後の罹災者の実態が窺える1冊。

★禁野火薬庫は、弾薬類を収蔵する施設として明治29年に開設され、昭和20年の終戦まで存続した。昭和14年3月1日に起きた爆発はすさまじく、大小27回の爆発を記録し、陸軍の報告書によれば、死者94人、負傷者602人、また報告書以外に2人の死者名を記す帳簿もあり、被害はこの数字を上回る規模であったと推察される。

★伊加賀の友人宅で爆発に遭遇した小野清彦氏は、サイレンの鳴り止まぬなか自宅に戻り、様子を見に倉敷紡績枚方工場（現関西医科大学枚方病院）付近まで来たところで三度目の爆発に遭遇した。そのすさまじさに狼狽して急いで自宅にとって返し、家族とともに京阪電鉄の線路伝いに南へと避難する。自らの葛藤や焦燥も包み隠さず叙述されており、大爆発直後の本格的な被災体験記は初めてのものである。

★清彦氏は手記のはしがきにおいて、戦時下における軍機の秘密厳守の観点から、新聞記事に隔靴搔痒の憾みあるのは是非もなく、此の記録は絶対秘密であると記す一方、未来永劫、忘れる事の出来ぬ「恐ろしかった記録」として子々孫々に伝えたいと記している。爆発から80年目という節目にあたり、悲惨な出来事を将来に語り継ぐため、爆発当時の新聞記事もあわせて資料集として刊行する。

全248ページ、1部800円。中央図書館5階市史資料室と市役所別館1階受付で9月17日から販売。

<お問い合わせ>

社会教育部文化財課 ☎ : 050-7105-8154 FAX : 072-851-9062



枚方市史資料第9集

禁野火薬庫 爆発遭難手記

1部 800円

たゞ未来永劫、忘れる事の出来ぬ「恐ろしかった記録」として子々孫々に
伝えたいと思ふに過ぎぬ。

昭和14年3月1日の禁野火薬庫大爆発に遭遇した枚方町（当時）在住の小野清彦氏の手記は、
これまでにないボリュームで臨場感に溢れ、80年の時を越えて我々に事件を迫体験させて
くれる。手記とあわせて、同氏が収集した爆発関係の新聞記事、市史資料室が補足して収集
した新聞記事を1冊にまとめた資料集。

販売場所

中央図書館 5階 市史資料室 枚方市役所 別館 1階受付

お問い合わせ

枚方市教育委員会 文化財課市史資料室
〒573-1159 枚方市車塚2丁目1-1 枚方市立中央図書館 5階
電話050-7105-8154 FAX072-851-9062